

114
A 3425

三十五
史部本局

法制局第五十五號

明治九年二月

大
法制局
史

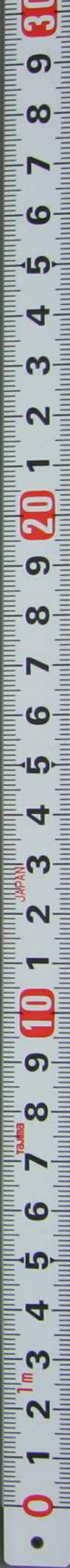
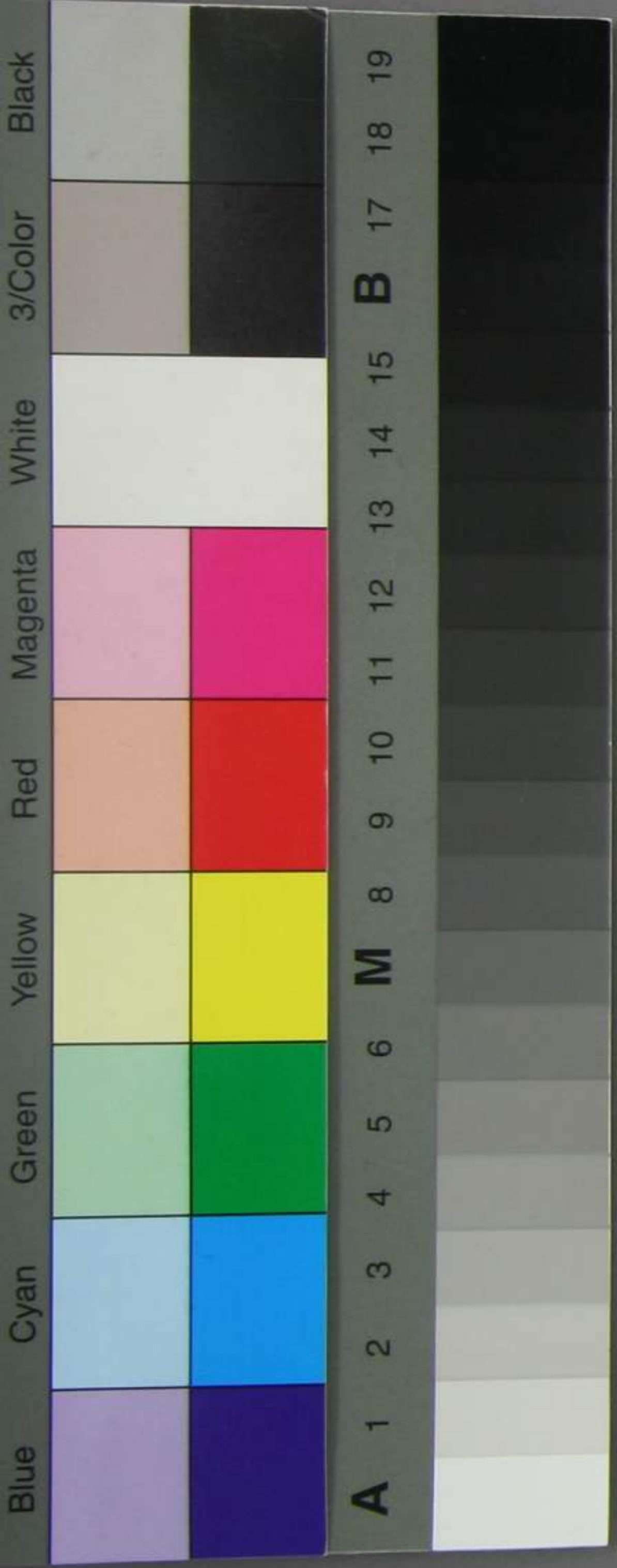
大正十一年四月
天
隈
侯爵邸寄贈

大
參
議
輔



別置申司法者同科料金ノ儀及審按候
處台様種ノ惡弊ヲ来タスハ貸借上制限
ナキノ致ス所然中利息制限ノ如キハ各國ニ
在テモ皆一タヒ之ヲ設立セサル者無シ蓋シ其
貨殖上進歩ノ度ニ於テ自ラ之ヲ制限セサルヲ
得サル者アレハナリ且ツ今日我國金融ノ壅
塞及ヒ人民蕩産ノ衆キ利息ノ過高ニ由ルト
云ハサルヲ得サル者アリ故ニ先ツ利息制限所設

議
檢
名



九年二月

法制局
大史局

大正十一年四月
大隈侯爵邸安

總務

第一

主務

纂

金

自同科料金ノ儀及審按候
ノ惡弊ヲ来タスハ貸借上制限
就中利息制限ノ如キハ各國ニ
之ヲ設立セサル者無シ蓋シ其
ノ度ニ於テ自ラ之ヲ制限セサルヲ
ハナリ且ツ今日我國金融ノ壅
滯産ノ衆キ利息ノ過高ニ由ルト
ル者アリ故ニ先ツ利息制限御設

3836

議定
檢視
各

相成度即于別紙通條例取調仰高裁
候也

御布告按

明治六年二月七日第四十号及明治六年三月七日第九十
二号ヲ以テ金銀利息之布告并ニ被廢更ニ左ノ通リ制定候
條此旨布告候事

月 日

金穀利息條例

第一條

凡シ金穀貸借ノ利息其契約ヲ以テ取り定ムル者ハ
一ケ年一割二分即チ百ニ付十二ヲ過ク可ラス此ヲ踰ユル者ハ
非法ノ利息トス

但シ金十圓以下穀物一名以下ノ貸借ハ特ニ一ケ年
一割五分即チ百ニ付十五迄ノ利息ヲ契約スルベシトス

第二條

凡シ裁判上ノ利息裁判上ノ利息トハ契約ニ其定メナクシテハ一ケ
年六分即チ百ニ付六トス並ニ自法司ヨリ之ヲ裁定スル者ヲモフ

第三條

金穀ノ貸借ハ必ス其契約面え高ノ全數ヲ以テ之
ヲ取引キスヘシ貸主ハえ高ノ内ヨリ先ツ其利息ヲ

引去ル一ヲ得ス

第 四 條

貸主ハ其借主ヨリ定制利息ノ外別ニ禮金ヲ
數料等ヲ取ルヘカラス

第 五 條

凡ソ非法ノ利息ヲ取ルヘキ約定ヲ為シタル貸主ハ
其貸シタル元高ノ半數ニ至ルマテノ罰金ヲ科ス
其再犯スル者ハ此罰ノ最重ヲ科ス再犯ノ情尤モ
重キ者ハ此罰金ヲ倍料スル一アルヘシ

第 六 條

第 三 條 ヲ犯ス者ハ其先ツ引キ去リタル高ノ五倍以
上十五倍以下ノ罰金ヲ科ス其第 四 條 ヲ犯ス者ハ
其受テ取リタル高ノ十倍以上廿倍以下ノ罰金ヲ

科ス其再犯スル者ハ第 五 條 ノ例ニ視ル

第 七 條

凡ソ貸利 仍ハ其元金高ノ利息ヲ取ル一ヲ取
者ハ罰金五條ト同シ

第 八 條

若シ貸主詐偽ヲ行ヒタルノ証 證言ハ其實百圓ヲ算シテ其文
ラ取ル等ノ類ヲスル 明白ナル中ハ第 五 條 罰金ヲ科シ并ニ一
年以上三年以下ノ禁獄ニ處ス

第 九 條

凡ソ貸借上ヨリ起リタル訴訟其証文中利息ノ明
文ナキ者ハ皆裁判上ノ利息ニ依テ之ヲ裁判スヘシ
若シ其借主ヨリ從前拂ヒ入レタル利息此割合ヲ踰
エシ一ノ証明白ナル中ハ其過剩セル分ハ之ヲ返算

シテ其え金ノ内ニ拂ヒ入レタル者ト為スルシ或ハ其え
利共皆濟セシ者ハ貸主ヨリシテ其利息ノ過剩セル
分ニ之ヲ清取リタル日ヨリノ利息ヲ加ヘ其借主ニ償
還セシムルシ

第十條

貸主ハ其借主返濟違約ノ罰金違約金等ヲ預メ
約定スルヲ得ヌ之ヲ犯ス者ハ罰身四條ヲ犯ス者ト同
シ

第十一條

凡ソ金穀ノ貸借此條例布告前ニ在テ一ヶ年一割
ニ分以上ノ利息ヲ契約セシ者此條例布告ノ日ヨリ以
往ハ總テ之ヲ定制ノ利息ニ引キ減スヘシ若シ其引キ
減セサル者ハ第五條ト罰同シ

但シ従前ノ舊文ヲ書キ改ムルヲ必要トセズ

參照

息銀ハ消費スベキ物ノ借料即貸シタル金額ト
還ルヘキ金額トノ間ニ存スル差ナリ、中古ニオ
イテハ「カトリキ」宗ノ教法左ノ教條ニ基キ息
銀ノアル貸借ヲ禁シタリ即チ消費スヘキ物品
ハ利益ヲ得ルノ望ミナク之ヲ貸スベシト斯ノ
如ク息銀ヲ取テ貸ス「」ノ禁制ハ高工ノ業ヲ損
シ空貨ノ融通ヲ害シ又奸悪ノ徒ハ法ヲ避ケ利
ヲ圖リ種々奸計ヲ働キ莫大ノ高利ヲ貪ルノ弊
ヲ醸シタリ

太
文
官

太
文
官

千七百八十九年革命ノトキニ至リ法律ヲ以テ
息銀アル貸借ノ相当ナルヲ認シタリ、然ルニ
革命ノ際國民安堵セズ金ヲ貸サントスル者ハ
抵当ノ抵当タルヲ信セズ自ラ窖中ニ貯藏シテ
他ニ奔放セシメズ金ヲ求マル者ハ益多キヲ加
ヘ随テ莫大ノ息銀ヲ相互ニ約定スルニ至レリ、
民法編纂ノトキ編纂者己ニ此弊ニ注目シ第千
九百七條第二項ニ法律上ノ息銀ハ法律ヲ以テ
之ヲ定ムト掲ケ又第四項ニ契約ヲ以テ定メタ
ル息銀ノ割合ハ証書ヲ以テ之ヲ定ムヘシト掲

ケタリ、是レ息銀ノ割合ハ追テ法律ヲ以テ之ヲ
定メサルベカラス現今ニオイトハセメテ其割
合ハ証書中ニ明記シ多少ノ弊ヲ防カントシノ
ルノ意タリシヲ明カナリ、實ニ民法ノ布告ヨリ
四年ノ後千八百七十七年七月三日ノ法律ヲ以テ將
來契約ヲ以テ定ムル息銀ハ民事ノ物件ニ付テ
ハ五分(百ニツキ五)商事ニ付テハ六分(百ニツキ六)
ニ過ルヲ得スト定メタリ、商事ニ付テノ息銀
民事ニ付テノ息銀ヨリ大ナルハ蓋シ商人ハ借
受タル金銀ヨリ損益ヲ得ルコト尋常人ヨリ多

ケレハナリ、千八百七十年法律ハ其規定ヲ犯セ
シ者ニ向セ罰則ヲ備ヘタリシニ千八百五十年
十二月十九日ノ法律ヲ以テ罰則ヲ更正シ法律
上ニ定メタル息銀ヨリ過分ヲ約定スルヲ禁シ
殊ニ頻次法律上ニ定メタル息銀ノ過分ヲ約定
スル者ヲ嚴科セントシタリ

息銀ノアル貸借ノ一ニツキ千八百〇七
年九月三日ノ法律

第一條 契約ヲ以テ定メタル息銀ハ民事ニオ

イテハ五分(百ニツキ五)商事ニオイテハ六分

(百ニツキ六)ヲ過ルヲ得ス

但シ何レニオイテモ元金ノ内ヨリ息銀ヲ差

引クコトヲ得ス

第二條 法律上ノ息銀ハ民事ニオイテハ五分

(百ニツキ五)商事ニオイテハ六分(百ニツキ六)

タルミシ

但し何レニオイテモ元金ノ内ヨリ息銀ヲ差引クコトヲ得ス

第三條 契約ヲ以テ定メタル息銀ノ第一條ニ記スル割合ヲ過ルルハ其訴訟ヲ受理スル裁判所ヨリ貸主既ニ此息銀ヲ受取りタルニ於テハ其過分ヲ返還ス可キ旨或ハ其元金ノ内ヨリ其過分ヲ引去ル可キ旨ヲ言渡ス可シ又場合ニヨリ次條ニ從ヒ處分爲スタメニ輕罪裁判所ニ送ルコトアル可シ

第四條 スベテ頻次法律ニ定ムル息銀ノ過分

ヲ約定スルノ訴ヘアル者ハ輕罪裁判所ニ喚出シ果シテ之ヲ犯シタルハ其貸シ渡シタル元金高ノ半ニ過キザル罰金ニ處セララル可シ又貸主奸計アルコトヲ發露シタルハ此罰金ノ外更ニ二年以内ノ禁錮ニ處セララル可シ

○千八百五十年十二月十九日息銀犯罪法律

千八百七年九月三日ノ法律第三條及第四條ヲ左ノ如ク改正ス

第一條 民事又ハ商事ノ訴訟中契約ヲ以テ定
メタル息銀法律上ノ割合ヲ過ルヲ證明ナル
トキハ其仕拂ノ時當然法律上ノ息銀ニ引當
テ猶餘分アルトキハ元金ノ内ニ差加ヘシム
ズ
若元利共ニ皆済ナリシトキ貸主ハ其不當ニ
請取りタル金員ニ其請取りノ日ヨリ利息ヲ
加ヘ返還スズキ申渡シテ受クベシ
此類ノ事ヲ記シタル民事又ハ商事ノ裁判申
渡書ハ一月内ニ裁判所ノ書記官ヨリ檢事ニ

送致スヘシ違フトキハ十六フラン以上百フ
ラン以下ノ罰金ニ処セラレ得

第二條 頻次法律ニ定ムル息銀ヲ割合ヨリ過
分ヲ約定スル者ハ其貸シタル金員ノ半高ニ
至ルマテノ罰金並六日以上六月以下ノ禁錮
ニ処セララルベシ

第三條 前條ノ罪再犯ノ場合ニオイテハ前條
ニ掲クル刑ノ最重ヲ得スヘシ
又此刑ヲ二倍ニ迄増スヲ得ヘシ
但シ刑法第五十七條及第五十八條ニ掲クル

一般ノ再犯ニ相觸ル、トナシ

初メテ頻次法律ニ定メタル息銀ノ過分ヲ約定スル罪ヲ犯シタル者其裁判申渡ヲ受ケシ後五年ノ内更ニ同罪ヲ犯ストキハ事一回ニ止ルトイヘ凡之ヲ再犯ト看做スベシ

第四條 若シ貸主奸計ヲ行ヒタルトアルトキハ刑法第四百五條ニ掲ケタル刑ニ処セラレベシ但シ本律第二條ニ定ムル罰金ハ別段トス

第五條 何レノ場合ニアリテモ裁判所ニオイテハ情状ノ輕重ニ依リ犯人ノ自費ヲ以テ其

裁判申渡書ヲ街道ニ貼付セシメ且其摘撮書ヲ其州ニ發行スル一個或ハ數個ノ新聞紙ニ記入セシマルトヲ得ベシ

第六條 裁判所ニオイテハ何レノ場合ニテモ刑法第四百六十三條ヲ適施スルトヲ得ベシ

第七條 該件刑法第四百六十三條末項ニ記スル罰金ハ換事ノ要メニヨリ民事裁判所ニオイテ之ヲ申渡ストヲ得ヘシ

第五十七條（千八百六十三年五月十三日如左改ム）重罪ノ
タメ一年間以上ノ禁錮ノ刑ヲ言渡サレシ後更ニ懲治ノ
刑ニ處スヘキ輕罪又ハ重罪ヲ犯セシ者ハ法律上ニ定メ
タル至重ノ懲治刑ニ處セラレヘシ但シ其期限ハ通常ノ
期限ノ二倍ニ至ル迄之ヲ増ス得ヘシ
此刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ五年ヨリ少ナカラス十年ヨリ
多カラサル時間政府ノ監察ヲ受クヘシ
第五十八條（千八百六十三年五月十三日如左改ム）輕罪ノ
タメ一年以上禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者其後更ニ懲治
ノ刑ニ處スヘキ輕罪又ハ重罪ヲ犯セシ時ハ法律上ニ定
メタル至重ノ懲治刑ニ處セラレヘシ但シ其期限ハ通常
ノ期限ノ二倍ニ至ル迄之ヲ増ス得ヘシ又其再犯ハ
五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監

察ヲ受クヘシ

第四百五條（千八百六十三年五月十三日如左改ム）偽リノ姓名ヲ用テ或ハ偽リノ身分ヲ称シ或ハ偽リノ起テ無実ノ威權偽リノ信拠ヲ人ニ証シ示スヘキタメ詐計ヲ用テ又ハ人ヲシテ無実ノ成功及ヒ無根ノ事故ヲ希望セシメ或ハ畏怖セシムヘキタメ偽計ヲ用テテ人ノ所有スル金銀、動産、義務ノ証書、契約書、手形、約定書、算還ノ証書ヲ己レニ渡サシメ或ハ渡サシメント試ミナシ且其偽計ヲ以テ人ノ産業ノ全部又ハ一部ヲ奪ヒ或ハ奪ハント試ミナシタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且五十「」ラニクヨリ少カラス三千「」ラニクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受クヘシ又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年

ヨリ多カラサル時間第四十二条ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムル「」ヲ得ヘシ但シ此規則ト其犯人ニ贖造偽造ノ重罪アル時更ニ重キ刑ニ処スヘキ規則ト相觸ル「」トナカルベシ

總規則

第四百六十三條（千八百六十三年五月十三日如左改ム）犯罪ノ証アル被告人ヲ法律ニ循ヒ処スヘキ刑ヲ輕減スヘキ狀情アル「」ヲ陪審ノ決定シタルキハ左ノ如ク其刑ヲ減スヘシ

若シ法律ニ循ヒ死刑ヲ言渡スヘキハ裁判所ヨリ無期ノ徒刑又ハ有期ノ徒刑ヲ言渡スベシ無期ノ徒刑ヲ言渡スベキハ裁判所ヨリ有期ノ徒刑又ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ヲ言渡スベシ

若シ城寨中ニ繫囚スル流刑ヲ言渡スキハ裁判所ヨリ通常ノ流刑又ハ囚獄ノ刑ヲ言渡スヘシ但シ第九十六條及第九十七條ニ記シタル場合ニ於テハ通常ノ流刑ノミヲ言渡スヘシ

若シ流刑ヲ言渡スヘキハ裁判所ヨリ囚獄ノ刑又ハ追放ノ刑ヲ言渡スベシ

若シ有期ノ徒刑ヲ言渡スヘキハ裁判所ヨリ徒刑場内ニ於テ使役スル刑又ハ第四百一條ニ記シタル刑ヲ言渡スヘシ但シ其禁錮ノ時間ヲ二年ヨリ少ナク減スベカラス

若シ徒刑場内ニ於テ使役スル刑囚獄ノ刑追放ノ刑公権剥奪ノ刑ヲ言渡スヘキハ裁判所ヨリ第四百一條ニ記シタル刑ヲ言渡スヘシ但シ其禁錮ノ時間ヲ一年ヨリ少

ナク減スヘカラス

法律ニ循ヒ至重ノ施體ノ刑ヲ言渡スヘキ時其刑ヲ輕減スヘキ情状アルニ於テハ裁判所ヨリ至輕ノ施體ノ刑ヲ言渡シ又ハ施體以下ノ刑ヲ言渡スヘシ

何レノ場合ニ於テモ法律ニ循ヒ禁錮ノ刑ト罰金トヲ言渡スヘキ情状アルニ於テハ再犯ノ場合ト虽モ輕罪裁判所ニ於テ其禁錮ノ刑並ニ罰金ヲ左ノ如ク減スヘシ

若シ罪ノ種類又ハ罪ノ再犯ニ因リ法律ニ循ヒ一年ヨリ少カラサル禁錮ノ刑又ハ五百「フ」ラニクヨリ少カラサル罰金ヲ言渡スヘキハ裁判所ヨリ其禁錮ノ時間ヲ六日迄ニ減シ且其罰金ヲ十六「フ」ラニク迄ニ減スル「フ」ラ得ヘシ
其他ノ場合ニ於テハ裁判所ヨリ其禁錮ノ時間ヲ六日以

下ニ減シ其罰金ヲ十六「以下ニ減スル」ヲナシ
得ヘク又其禁錮ノ刑ト罰金トノ中具一箇ノミヲ言渡シ
又ハ禁錮ノ刑ニ換テ罰金ヲ言渡ス「得ヘシ但シ何レ
ノ場合ニ於テモ其罰金ハ註誤ノ罪ニ付キ言渡スヘキ罰
金ヨリ少ナキ」ヲナルベシ

甲子三月廿七日

法制局第五十五號

法制局
受付印

書

榮秀

貸借上料料金等ノ名目ヲ掲ケタル証書之
儀ニ付伺

金穀其他貸借上人民中一種ノ弊習ヲ生シ其初
約定ヲ取結フカ或ハ延期ノ約定ヲ取結フ節ニ
於テ豫シメ又違約ヲ為スニ就テノ約定ヲ為シ
料料金罰金償金等ノ名目ヲ以テ巨額ノ金高ヲ
定メ証書上公然之レヲ記載シタル者往々之レ
アリ裁判官ニ於テ或ハ之レヲ遂クルヲ得可キ
約定トシ或ハ之レヲ遂クルヲ得可ラサル約定
トスル者アリ其論スル所合同シカラス終ニ人
民ノ迷ヲ生スル事情モ有之右ハ従前一定ノ成
文律無之ヨリ如此ノ不都合ヲ生スル譯ニテ畢
竟人民私約上ニ於テハ一方ノ者其約定ヲ違變

オニルニテ

司
法
省

スルニ因リ自ラ受ケタル損害ノ償ヲ請求スル
ヲ得可キ道理アル而已ニテ曾テ其違約ヲ罪ア
リトシテ之レヲ懲スノ推ニ於テハ敢テ管ル可
キ所ニ非ス然レハ實際損害ヲ受ケタル時ハ其
損害高ニ應シ相當ノ金額ヲ請求スルヲ得可
シト雖モ實際ノ損害如何ヲ明ラカニセス撰ニ罰
金科料金等不都合ノ名目ヲ掲ケ金額ヲ豫定シ
テ之レヲ請求スル道理ハ無之ニ付速ニ別紙ノ
通御布告相成候様致度仍テ御布告案相添此段
相伺候也

明治八年十二月廿四日

司法卿大木喬任

三條太政大臣殿

御布告案

金穀其他物品貸借違約ニ付テノ償金ハ其違約
ノ為メ損害ヲ受ケ又ハ將ニ得可キ利益ヲ妨ケ
ラレタル實際ニ因リ相當ノ金額ヲ請求スルヲ
得可シ若シ罰金違約金科料金等ノ名目ヲ以テ
証書上償金ノ額ヲ預定シタルモ實際ノ損害又
ハ得可キ利益ニ適當セサルニ於テハ裁判上其
約定ノ効之レナク候條此旨布告候事

